

# 第5回 八幡市地域公共交通会議 議事録



令和4年11月15日(火)午前9時30分～10時35分

八幡市文化センター会議室3

## 第5回八幡市地域公共交通会議（議事録）

日 時：令和4年 11月15日（火） 午前9時30分～10時35分
場 所：八幡市文化センター会議室3
参加者：委員・オブザーバー21名 傍聴者8名 事務局 5名
傍聴者：8名

### 1 開会

### 2 会長あいさつ（井上議長）

お忙しい中、お集まりいただき感謝いたします。本日の議題は来月のダイヤ改正についてと、西山デマンド交通の進捗状況、近隣自治体の皆さんとの情報共有です。特に前回の8月に京阪バスさんからお話があった中で変更があったので、今回議題にあげました。11月が始まって、かなり人出が多くなってきたが、人流が戻ったとしても今までの赤字の状況に戻るだけで、交通事業者が黒字になるという事はなかなかしんどいです。この2年間にわたるコロナ禍の中で赤字路線が広がっている事は皆様ご理解いただけたと思います。

今日は皆さんからのご忌憚のないご意見を期待します。

### 3 委員の紹介

井上会長、副市長、あとは反時計回りに自己紹介。

### 4 議 題

#### ①京阪バスのダイヤ改正について

（井上会長）

それでは議事に移らせていただく。議題①京阪バスのダイヤ改正について、京阪バスの三田委員から説明を願う。

（三田委員）

ダイヤ改正の内容について、前回8月2日の地域公共交通会議にて報告させていただいたが、実施日等細部が確定したので、再度ここで報告させていただく。

前回も申し上げたが、コロナ禍以前から少子高齢化による利用者の減少や、乗員不足の状況から厳しい状況になり、さらに新型コロナの感染拡大利用者減少により、2年連続で大変な赤字、過去3年で約20億円のマイナスとなっている。

八幡市に限らず、全域を通して利用状況を見極めたうえで、減便や、運賃改正、経路の一部変更等を検討しているところだ。直近の状況から言うと、当社全体の

ご利用についてはコロナ禍前の9割近くまで戻ってきているが、それ以上についてはなかなか戻らず、会社としてもこれ以上は戻らないと想定している。

運転手不足が深刻になっており、最近、ご利用が多く（なってきたが利用状況が）戻って来ても、以前の便数が確保できないことが実情だ。今回の内容に関しても、ご利用の皆様には大きな影響があると重々承知しているところではあるが、ご理解いただきたい。

内容について、資料をご覧ください。

1. 実施日だが、前回の予告では10月中という事であったが、12月17日(土)を予定している。

2. 計画概要について、1点目<sup>33</sup>石清水八幡宮駅から西戸津の系統について、利用状況に基づいて土休日の運行を取りやめさせていただくということ、2点目は<sup>5</sup>くずは男山循環系統の一部経路を短縮。3点目は、その他の系統についても利用状況を勘案して増減の調整を行わせていただく。

### 3. 改正内容

まず(1)の<sup>33</sup>石清水八幡宮駅から西戸津の系統について、前回から説明させていただいていたように、土休日のみ運行を取りやめさせていただく。運行を取りやめる便数は記載の通り。(西戸津(一部戸津)発▲19便、石清水八幡宮駅発▲19便)

その補完として<sup>78B</sup>石清水八幡宮駅～走上り経由の男山車庫までの系統を増便する。増便本数は9～16時帯 石清水八幡宮駅発+4便男山車庫発+3便。この<sup>33</sup>系統については、前回報告した通りだが、八幡市内を運行する当社路線の中でも収支率、赤字額が最も悪い路線となっている。具体的にICカードおよび現金利用で推定したところ、2021年は1便あたり4～5人程度、土休日は1便あたり2～3人程度のご利用しかなかった。

この数字には定期券の利用は含まれていないが、土休日に限ると定期券のご利用は極めて少ないと思われるので、大きく変動はないと思っている。

さらに一番大きな影響があると思われる西戸津、および小松の停留所に限ってご利用状況を見ると、それぞれ全体のご利用の10%程度であり、土休日は2つの停留所を合わせても1便あたり1人に満たないご利用状況になっている。以上が(1)の内容だ。

続いて(2)のくずは男山循環、こちらも前回ご報告させていただいた通り、経路を短縮したうえで、現行の40分間隔を60分間隔に変更し、減便させていただく。便数としては全曜日9時から17時台の間で、13便が9便に変更になる。具体的な経路図は、変更経路図をご覧ください。くずは男山の経路は黒の線になるが、今回、この黒の点線部分を短縮させていただき、青の点線へ変更

させていただく。なお、前のご報告させていただいた時に、一部の便について、変更経路で運行継続する可能性があるとお伝えしたが、その後の社内検討の結果、全便経路短縮して運行させていただくことになったので、ここで訂正させていただきます。

この運行経路は、先ほどの33系統ほどではないが、やはり成績も赤字額も悪い。利用状況も1便あたり10～15人程度であり、中でも経路短縮区間、泉から男山商店街西の間になるが、こちらの間のご利用区間が全体のご利用の10～20%前後程度のご利用となっており、特に降車のご利用が多い傾向にある。

経路短縮区間内にある、318棟前から男山商店街西までの間の黒の四角で表示したこちらの停留所については、今回で廃止ということになるが、いずれも場所によるが、100m～300m範囲内に他の停留所、具体的には長沢、泉、北センター、さくら小学校、中央センター前、くすのき小学校、(変更経路図に)赤色で示された停留所がある。(これらの停留所から)くずは駅方面のバスをご利用いただくようお願いしたい。

補足だが、318棟前、306棟前については、八幡市のコミュニティバスの市民体育館行きの停留所があり、そちらもご利用いただける。以上が(2)の説明になる。

最後の(3)その他のところだが、今回追加させていただいた内容だ。(1)(2)で説明した系統以外においても、一部系統において利用状況に応じた増減便、区間時分の変更、発車時刻の変更等を行わせていただく。なお、これらの調整については経路の変更等はしない。

また、同日に近鉄電車のダイヤ改正が予定されているので、一部経路ではそれに合わせた発車時刻の変更も行う。本日は、八幡市内の内容を説明させていただいているが、八幡市域以外においても枚方市域、京田辺市域、少し離れるが滋賀県の大津市域でも同日、12月17日に減便を伴うダイヤ改正を実施する予定であることを報告させていただく。

12月17日に実施予定のダイヤ改正については以上だ。ご利用のお客様には影響が出ることも承知しているが、何卒ご理解いただけるようお願い申し上げます。

(井上会長)

ただ今の報告について、何かご意見、ご質問等は。

(藤田部長)

第4回の地域公共交通会議、及びそれに先立つ作業部会において、本市からもこれについての意見を述べさせていただいているが、本市としては実情を考

えるとやむを得ないと考えている。先ほど三田委員からの説明にもあったように、コロナ禍以前から少子高齢化による利用者の減少や乗務員の不足等、厳しい状況にあり、新型コロナウイルス感染症拡大や生活様式の変化、また直近の燃料等の高騰によりバス事業者の経営環境はより厳しいものになっていることは理解している。

しかし今回、道路運送法施行規則の特例を利用され経路の一部を短縮・廃止を決定されたことは誠に残念であると考えます。この決定は、利用者や地域に影響のある内容となることから、先ほど説明いただいた内容について、出来るだけ早く、利用者への周知と地元自治会に対し、丁寧な説明を行っていただきたい。

(三田委員)

八幡市様からお話いただいた地元の周知の関係だが、こちらに関しては八幡市様と連携して可能な範囲で対応させていただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

(井上会長)

他、いかがか。

(松本委員)

社会福祉協議会の松本です。私も戸津の地元に住んでいる。

朝、もう1便早い、石清水八幡宮駅へ行く路線があるが、それは今後も運行されるのか。

(三田委員)

仰っておられるのはおそらく戸津からの便のことだと思うのだが、朝の1便だけ戸津から出ていて、あとは西戸津から出ている。今回、土曜、休日に関しては戸津からの便も西戸津からの便も取りやめさせていただく。平日に関しては戸津からの便、西戸津からの便、いずれも変更の予定はない。

(井上会長)

今月頭、西戸津まで何往復かして来た。午前中乗っていたが、行きは小松から1人、あとは私だけ。他のお客さんたちは平均値くらい4~5人乗られていて、みんな市役所前で下車。復路は戸津からおばあさんが2人。あとは途中乗車、その後も私は往復(乗車)した。平日に見てきて地域を歩いてみたのだが、平坦で自転車で移動しやすいというのがよくわかった。その後も集

落の中を歩かせてもらった。なので、最低限、車がどうしても利用できない高校生の通学等その辺は守っていききたいと思うが、昼間に関しては、ある程度時間に合わせていただくしかなくなると思う。現実問題、（現在）本数は多い方だ。沿線人口に比べてかなりダイヤが配備されている。それでも本数少なくて、使いづらいつらうというならば、これは維持が難しくなっていくだろう。

今回、この話がこれから将来どうなるかということ、増便はない。今後はよその地域で乗っていないと思われる路線が、次の減便廃止の対象になる。その時に何を守っていかなければいけないのかと言ったことがまず起こる。

バス事業者が今、かなりひっ迫し、データを出すのも一苦労だと思う。ただ定期的になんとかある程度、サンプリングでもいいので、利用実態を報告いただければと思う。廃止になる時、この人数だと言われて、地元としても感情的にそれは非常に困るというのはよくわかる。

一方で、定期的に利用実態を共有し、少なくなっているという事を皆さんでしっかり共有したうえで、少ないながらも利用されている人は、どうしたらその後も何とか利用できるようになるのか、全体的に考えて行くしかない。バス事業者、鉄道事業者だけをお願いする時代ではない。

一方で、その後、コミバス乗ってきたのだが、本数は少ないと言われているが、実際乗ってみると、1時間に1本でも皆さん利用されている。この違いは生活習慣から出て来るのではないだろうか。

今後またイベントの開催もあるので、その時に合わせてバスの乗り方、モビリティマネージメントを積極的に行うといいのではないか。

（西村副市長）

報告の内容は、市としては残念だが、企業として成り立っていくための決断かと考えている。この会議は、八幡地域の公共交通をどうして行こうかという場でもあるので、厳しいが今年まとめさせてもらった計画の中に、どうやって住民の皆様に乗っていただくかというのもある。

また、先ほど会長からも言われた八幡市のコミュニティバス、これもけっこう赤字だ。これ以上税金をどこまでつぎ込むべきかといういろいろ議論はあるが、便数や経路の見直しなどを今後やって行こうという計画になっている。

バス停の改修についてもさせてもらっているし、後からお話があるデマンド交通もやっていただくようになる。そうしたものも踏まえ、全体を通して見ていくには、今後またこの会議の場なり、計画に基づいて事業を実行していく中で、様々出てくると思う。部会や京阪バス様を含め、ご協力やご提案をしていただけると、より良い地域交通になると思う。皆様、ご協力よろしくお願ひしたい。

(井上会長)

ありがとうございます。それでは、何とか他の路線に関してもみんなで利用して、これ以上減らないようにしていきたいと思う。

それでは議題の②に移らせていただく。橋本西山地域のデマンド交通について報告をお願いします。

## ②橋本西山地域オンデマンド交通について

(事務局：増永課長補佐)

橋本西山地域のデマンド交通について、資料2をご覧ください。これについては以前から実証運行の経過報告などをさせていただいている。資料のとおり、第1回目から第4回の実証運行まで、その都度結果の分析をされており、これまでも共有してきた。

今回いよいよ本格運行への手続きに入る。

(経過については)今年8月2日に実施された第4回地域公共交通会議の場で合意形成を行う予定であったが(できなかったため)、その後資料の下に記載の日程のとおり、9月1日に橋本西山地域のオンデマンド交通に関する確認書を運行主体であるNPO法人道しるべさんと京阪バスさん、京都京阪バスさん、タクシー事業者さんの4者で取り交わした。

確認書の内容は、運行区域やその他の条件等について、既存の公共交通を損ねないような形で運行するというものだ。それに基づき、地域公共交通会議を書面開催でお渡しし、公共交通会議の委員の皆様にも本格運行への合意形成を諮らせていただいたところ、9月30日にこの資料の2ページ目にあるように、合意形成した。

委員の皆様、作業部会の委員の皆様全員に合意をいただき、そして田中委員からは「持続可能な運営を期待します」という意見をいただいている。委員全員の合意を踏まえ、10月7日井上会長の名前で合意書を交付し、これをもってNPO法人道しるべさんに申請書を整えていただく。

そして11月9日に京都運輸支局さんへ運行許可申請を行い、本日の第5回地域公共交通会議の日を迎えた。このような進捗状況だ。

書面開催等々ご協力をいただきました委員の皆様、お礼を申し上げます。

参考として令和4年10月7日に井上学会長のお名前で、「地域公共交通会議等において協議が調ったことを賞する書類」を添付している。

申請内容として、運行条件から運行区域までを表したものを別紙として添付している。今後の予定だが、今、本格運行の申請中であり今後審査をしていただくことになる。

このオンデマンド交通は運行をシステム管理されるということで、調整を兼

ねたシステムの合理化検証ということで、11月25日から実証運行される。その結果については後日の地域公共交通会議で報告させていただきたい。

年明けにおそらく許可が下りると思われる。その後、対象区域内での走行であることの周知に努め、本格運行の直前に第6回地域公共交通会議を開き、本格運行について皆様に周知させていただきたい。

それが終わり次第、本格運行に入る予定だ。本格運行が始まったら、年に4回、四半期ごとに報告をすることにしているので、よろしくをお願いしたい。

(井上会長)

ただ今の報告について、何かご意見、ご質問等があればお願いしたい。

(藤作委員代理)

今、増永補佐から説明があったように、まずは皆様、合意していただき、ありがとうございました。皆様の合意なしでは次へ進められない状況だった、誠にありがとうございました。

補足だが1番目の11月25日から始まる合理化検証という名だが主には事務の効率化だ。実際は予約センターで電話を受けて配車手続きをする。毎日の実績データに基づいてデータ処理をする必要がある。そのような事務の合理化を行い、3ヶ月に一度運輸局に報告するというのを義務付けられているので、どれに基づいた作業の合理化でその分を補う。実際、11月25日から電話回線につなげて今年度末の実際の有償運行に対して精査している。

今の状況は、京都運輸支局の方へ申請書を出したばかりで、最終審査を受けており、許可がおりたら有償運行にこぎつける。順調に進行すれば予定通りの本格運行に移行していく予定だ。

(井上会長)

ありがとうございました。他はいかがですか。

(野村先生)

作業部会の野村です。道しるべさんにお伺いしたいのだが、有償運行というのはやはりほかの地域を見ても、ドライバーさんが高齢化したり、なかなか確保できないという事例が各地で見られるが、道しるべさんとして、現状、これからも含めて運転手さんの確保や募集等、次の世代にどう繋げて行くという持続可能な運営をとったこの先の計画等々、教えていただきたい。

(藤作委員代理)

こういう事業は、運転協力者の確保が難しくなるということは、全国的に継続不可能になる理由の第1位に挙げられるのは事実だ。足りなくなったら補充するということなのだが、不足してからではなく、充足しているこの時期に、次に新陳代謝をする運転協力者予備員を確保するというのがいいだろうと模索中だ。

一つは八幡市のシルバー人材センターといういろんな業務に従事してくれる人を紹介してくれるところがあるが、そこの話し合いでは難しいということであった。2回、3回と協議を重ねることで、何らかの形で解決策を見出せたらと思うが、まだ実施されていない。

(井上会長)

他はいかがか。

(木原委員)

藤作さんから申請書をいただき、これから確認作業に入る。また問題が出てくるとは思うが、その時は対応をお願いしたい。第5回の合理化検証で実証運行されるということで、事務的なところを合理化検証されるということだが、利用者さんに、本格運行に向けていよいよ最後のテストだという意識づけをお願いしたい。

限られたエリア外には出ないということ、今は無料でも次からは対価をいただくということを周知できるよう、せっかくの機会なのでやっていただきたい。

現実のところ、お客様と利用範囲と運転協力者が、現実はどうやってうまく行くかを検証するので、利用範囲も今は垣根を越えているが、とりあえず利用される、されないにかかわらず、こんなことをやる、利用者としてこういうシステムがあって、受けられるという事実は(利用者)に伝えていただきたい。今、合意形成の上で決められた1ループ400円、これについても有償運行の際には改めて伝えてほしい。

(井上会長)

事故だけは絶対にならないようにお願いします。ぜひ、ドライバーの方々にヒヤリハットのマップを常にピックアップして、それを共有してここは絶対に気を付けようねという(周知を)お願いしたい。

(藤作委員)

事故を起こすと後の始末が大変で、事故に際しても保険については、(個人の自動車保険と運転ボランティア保険の)二つの保険にならざるを得ない。

事故を起こさないという前提で運行することが必須であると思っている。

(井上会長)

道しるべさんはいろんな活動をされているので、その活動を通して、まず道しるべさんに共感いただいた人の中から(運転者を)見つけるのがいいと思う。自分から声は上げにくいので、いかに皆さんの中からお声掛けされるかだと思う。ぜひ、今抱えている活動を通して見つけていただければと思う。

(藤作委員代理)

何度も申し上げるが、実際4回の実証運行において利用者が70歳から82歳まで(の高齢者で)あるが、この人たちの見守りの効果も兼ねていると感じた。

地元の福祉的なことに興味のある方がこういった活動の核を担っていただいて、土日のオンデマンドもありだと思っている。

(井上会長)

これで第1部は終了。マイクをお返す。

(事務局：増永課長補佐)

井上会長、ありがとうございました。  
それでは次第の5番目、その他に移る。

#### ①八幡市制45周年記念事業について

資料3をご覧ください。八幡市制が45周年を迎えた。その記念事業の一環としてコミュニティバスのラッピングと一日乗車券に記念デザインのイラストを採用し、八幡市制45周年のPRと地域公共交通のイメージアップを図っている。

この作者については、八幡市出身のイラストレーターの堀口悠紀子さん。代表作はアニメ「けいおん」等があり、今から10年ほど前TV放映され流行した。

(堀口悠紀子さんは)その世界ではすごく有名な方だ。その方より提供いただいた。このラッピングバスはすでに走っている。期間は来年いっぱいまでの1年間を予定している。

さらなる延長の検討もするところだ。記念乗車券についてもすでに販売しているが、スロースタートになっているが、徐々に売れてきている。

市制45周年記念事業については以上。

次に、②事業者支援について、事務局の佐野からご説明させていただく。

## ②事業者支援について

(事務局：佐野係長)

それでは八幡市における今年度の事業者支援についてご説明する。資料4をご参照願う。

八幡市ではこれまで、令和2年度には感染症対策をしながら事業を進めているに事業者さんに支援を行い、令和3年度にはコロナウィルス感染症、コロナ禍において事業を継続されている事業者さんに支援を行ってきた。今回、市では新型コロナウィルスの影響のほかに、原油価格高騰で経営を圧迫しているところに着目して補助金制度を創設した。

補助制度にかかる予算は、今年度の9月補正で700万円。財源は地方創生臨時交付金。

補償対象となる事業者は、本社あるいは営業所の所在地が市内にある乗り合いバス及びタクシー事業者になる。タクシー事業者は個人経営の方も含む。

補助内容としては、補助対象期間内に購入した燃料1リットル当たりの経費から基準額を差し引いた経費を補助対象経費とし、乗り合いバスにあっては補助対象経費に八幡市域内走行分の燃料購入量、タクシー事業者にあっては八幡市内の営業所に所属する車両の燃料購入量を乗じた額を補助金として交付します。例えば購入した燃料価格が1リットルあたり150円、基準額が1リットルあたり130円の場合、1リットルあたりの補助対象経費は20円となる。そこで、購入した燃料購入費が100リットルの場合、1回あたりの補助金は20,000円。このような計算を補助対象期間内における購入機会ごとの算出し、合計した金額を補助金としてお支払いすることになる。

また、補助金対象経費には、ガソリン・軽油20円、LPガス30円の上限を設定している。国・京都府から燃料高騰により補助金を別途受けている場合、相当分の額を控除し、重複することが無いようにしている。

先ほどから申し上げている補助対象期間については、令和4年10月1日から令和5年2月28日までの購入分が対象となっている。補助金の申請については令和5年3月以降に申請をしていただきたい。

これらの説明については、バス会社にはそれぞれの営業所さんに説明させていただく。タクシー事業者さんにはタクシー協会さん、あるいは業務センターを通じて説明させていただく。申請の方法についても常時情報共有して、迅速行いたい。

(事務局：増永課長補佐)

本日、オブザーバーの枚方市さんと京田辺市さんにも出席いただいている。せっかくの機会なので、事業者支援とそれ以外でも公共交通に対して取り組み状

況等々、ご報告をいただきたい。

(枚方市 森課長)

枚方市土木部土木政策課の森です。事業者支援は前回ご報告したので、今回は2点ご報告する。

まず1点目、交通政策だが、本市平成30年に総合交通計画を策定して、今、計画を進めているところだが、冒頭あったように、従来の人口減少に加えてコロナ禍の影響で、そもそも通勤しないというビジネススタイルも変わってきている。そのような状況を踏まえ、総合計画も来年5年を迎えるので、そちらの件と合わせて、現状に応じたお話をしたいと思っている。その時には、まず今ある地域公共交通の維持、確保は大前提だが、それに加えて地域公共交通計画の位置づけもして行こうと思っている。またその際には皆様のアドバイス等いただければと思っている。

2点目、これも前回くずは駅前ロータリーについてであるが、改良工事については御礼を申し上げたいが、実はあの駅前ロータリーには2点の課題があり、1点目は交通混雑の解消、2点目は西側の交通。この2点を課題としている。

1点目の交通混雑の解消は、改良工事により一定の改善が見られる。

2点目については、モールの中の広場、噴水のあるところが今、老朽化していて稼働を停止しているが、そこをフラットにする案などハードとその他あわせて検討している。

(事務局：増永課長補佐)

続きまして京田辺市さん。いかがでしょうか。

(京田辺市 近本課長)

京田辺市です。公共交通の利用促進の取り組みについて、1点ご報告をさせていただく。11月5日から6日にかけて、京田辺市で市民祭りを開催した。

それに合わせてバス無料の日を実施した。今回予算の方が市民祭りの実行委員会の方で何とかしていただいたが、事前に10月に市の広報誌の方に、この市民祭りの案内とそこにバス利用の無料チケットを付けて市内全戸に配布した。

この二日間はそのチケットをバス乗車時に提示していただくだけで、何回でも利用していただけるのだが、市内での降車のみバスが無料になるというよものだ。市役所をメイン会場で市民祭りが実施されたわけだが、他にも近鉄新田辺駅とかJR松井山手駅等、市内の数か所で催しがあったため、その移動手段として多くの市民の方にバスを利用していただいて、バス利用促進の起因になったと考えている。ご協力いただきました京阪バス様、京都京阪バス様、大変あり

がありがとうございました。また、こういったバス利用促進につながる事業については、毎年工夫をして続けていきたい。

（事務局：増永課長補佐）

非常に参考になる情報共有をありがとうございます。八幡市でも参考にさせていただきたいと思う。

他に何かご発言は。

（ないようなので）それでは最後にお手元のカラーチラシの説明をさせていただきます。まずオレンジ色の方からご説明する。

「秋の交通安全フェア」が11月27日の日曜日、午後1時から4時に八幡市民体育館で開催される。これは京都府交通安全協会と八幡市、八幡市交通安全対策協議会、八幡警察署の共催で開催される。

開催の主旨としては、車を手放せない高齢ドライバーが対象で、運転寿命を延ばすため、より健康でより長く運転を続けるために、危険予測トレーニング体験や認知・身体機能低下抑制トレーニング体験、フレイル予防のブースをはじめ、様々な催しを企画している。（チラシの）裏面には、高齢者だけではなく、ご家族でお越しいただいても楽しめるような八幡市制45周年記念事業の一環として行うイベントが載っている。

会場外では「はたらく車大集合」、「ふれあい動物園」、「ミニ電車」などのお楽しみイベントも行われる。特に「はたらく車大集合」では、パトカー、消防車、パッカー車の他、先ほど申し上げた記念ラッピングのコミュニティバスの車体を持ち込んで、乗車体験をしてもらえるし、記念一日乗車券の販売も行っている。ご興味のある方はぜひご参加いただけたらと思う。

次に、緑の方のチラシは周遊時空バス。

これは昨年度も実施されて、大変好評であったということで、今年も11月19日土曜日、20日の日曜日の二日間、無料運行でこの写真のあるハートの窓の形の特別車両で運行される。これに乗れば八幡市内の主な観光地に行けるといふもの。これも皆様ご利用いただければと思う。

補足を北西委員から報告をお願いします。

（北西委員代理）

観光協会です。今、ご説明あったように11月19日、20日に観光協会が主催の八幡の文化財一斉公開という催しがあり、八幡市内のお寺や神社の公開をこの時期にまとめて行って、皆さんに観光に来ていただくという催しだ。

それに合わせて八幡市で今回、無料バスを計画された。ご説明あったように、昨年も周遊時空バスということで、運行したが、それも好評であり、今年はチラシの下部にもあるように、山崎と石清水八幡宮の駅の間のシャトルバスを別途

運行する。なかなか対岸の山崎、乙訓方面、車だとすぐ行けるが、公共交通機関の接合があまり芳しくない。今年の実証実験の1つとして今回は山崎と石清水八幡宮を結ぶバスも追加でコースに入れた。機会があればまた、ご使用いただければと思う。

(事務局：増永課長補佐)

この2点のイベントは公共交通の利用促進の意味もある。これをきっかけにバスに親しんでいただき、バスは便利だな、いいものだなと今後繰り返し公共交通を使っていただけるユーザーを作っていくという側面もある。

ここまでで何かご質問等は。

その他にかかる事項は以上。

それでは、アドバイザーの高橋先生に一言いただきたい。

高橋先生におかれては、令和元年度にこの地域公共交通会議に任意協議会として立ち上がった当初から、八幡市がお世話になり、昨年度策定された公共交通計画においても大変ご尽力いただいた。この度、海外留学が決まられたということで、八幡市の会議とはひと段落ということになるので、よろしければ一言頂戴できればと思う。

(高橋先生)

近畿大学の高橋です。改めましてありがとうございます。先ほどオブザーバーと申し上げてしまいましたが、アドバイザーでございます。失礼いたしました。こちらの会議に出席の話をいただいた時に、既に今、お話があったように海外留学の話があり、途中で失礼することになるのでお断りをしていましたが、それでもご参加いただきたいとありがたいオファーをいただき、アドバイザーという形で出席させていただきました。

ところがコロナ禍で留学が延期になっておりましたが、ようやく今月末から来年の9月上旬まで9か月ほどイギリスへ行けることになり、今、準備をすすめているところだ。イギリスは私にとって大学生の頃から、交通政策など様々な面で参考にしてきた都市であり、渡英中は様々な情報を集めて参りたいと思っている。またこちらの会議で改めてフィードバックできる機会があればと思っている。この会議での活発な議論をお願いして、私からのご挨拶にかえさせていただく。本当にありがとうございます。

(事務局：増永課長補佐)

高橋先生、ありがとうございました。海外でのご活躍を期待しています。

本日のまとめを井上会長から。

(井上会長)

今日は皆様のご意見、出させていただいてありがとうございます。

今後、会議をやる度に減便という話が増えてくると思うが、バスに限らず鉄道分野もどこもしんどい状況だ。近鉄も来年4月値上がりする。でも、上げてもまだまだやっていけない状況だ。本当にみんなで利用していくしかない。

その中でヒントになるのはイベント開催時。この際にはバスがとても利用されている。イベント開催はインパクトがあって、みんながバスに注目するからだ。

今度はバスを使ってよい点を見つけることもできればよいだろう。バスの歴史みたいなことをみんなに知ってもらいながら、少しでも公共交通に参加できる方々を増やしてければ、それが第1歩だ。

(事務局：増永課長補佐)

以上を持ちまして、本日の議事は全て終了する。

次回の開催は年明け令和5年、1月下旬頃から2月上旬頃を予定している。

その前に突発的な事項があれば書面開催させていただく場合もあるが、(何もなければ)先ほどの日程で行う。その際はまたご案内する。

以上